



OTARU VIOLA MASTER CLASS 2019

第15回 ゆらぎの里ヴィオラマスタークラス

NEW YEAR CONCERT

2019. 1. 6 SUN. 15:00
OTARU

2019. 1. 12 SAT. 13:30
SAPPORO

SALON CONCERT

2019. 1. 10 THU. 18:00
OTARU

GRAND FINALE DON GIOVANNI

2019. 1. 14 MON. 15:00
OTARU

主 催 / ヴィオラマスタークラス実行委員会

小樽公演共催 / 小樽市民センター・マリナーホール

助 成 / 一般財団法人小野文化財団

奨学金助成 / 諸角 憲治

特別協賛 / 東洋化工株式会社

後 援 / (社)小樽観光協会 / 北海道新聞小樽支社 / 小樽・朝里のまちづくりの会

協 賛 / (株)アンビックス / 小樽・朝里クラッセホテル / ニセコ昆布温泉・ホテル甘露の森

(有)北海道新聞中販売所 / 北海道保険医会小樽後志支部 /

医療法人社団すみえ医院 / 医療法人清水桜が丘病院(釧路市)

虹色トラベル(株) / ホンダカーズ小樽(株) / 下山楽器

OSN小樽観光ネットワーク / ビッグテン小樽

協 力 / エヌ・エス・ケーピー(株) / ペンション・シャドウクラッセ / (株)AMATI

表紙画 / 版画「Travel imagination」by アオヤマ ヤスコ www.colorier.org

お問い合わせ / ヴィオラマスタークラス実行委員会

TEL.0134-54-4174 (高野)

EMAIL vmc.takano@gmail.com

WEB <http://vmc-otaru.info/>

第15回 ゆらぎの里ヴィオラマスタークラス 2019

ニューイヤーコンサート in 小樽 New Year Concert in Otaru

2019年1月6日(日) 15時開演 小樽市民センター・マリナーホール

シューマン：詩人の恋 作品48

Robert Schumann : Dichterliebe, Op. 48 (arr. for Viola and Piano)

ティモシー・リダウト (ヴィオラ) 草冬香 (ピアノ)

バルトーク：ヴァイオリンソナタ 第2番 Sz. 76

Béla Bartók : Violin Sonata No. 2, Sz. 76 (arr. for Viola and Piano)

今井信子 (ヴィオラ) 田中利恵 (ピアノ)

***** 休憩 *****

J.S.バッハ：ソナタ 第3番 ト短調 BWV 1029 (大槻晃士編)

Johann Sebastian Bach : Sonata No. 3 in G minor BWV 1029 (arr. K. Otsuki)

辻菜々子、ウェンティン・カン (ヴィオラ) 大槻晃士 (ヴィオラ・ダ・スパツラ)

ノックス：《スペインのフォリアに基づくマラン・マレ変奏曲》

Garth Knox : Marin Marais Variations on "Folies d'Espagne" for Four Violas

ファイト・ヘルデンシュタイン、鈴木慧悟、辻菜々子、山本由美子、山本一輝、ミンユ・シュ、エンチ・チェン、桂田光理、ボシェン・リ、サリー・チズム、山本成、井上祐吾 (ヴィオラ)

ショスタコーヴィチ：5つの小品 (小早川麻美子編)

Dmitri Shostakovich : 5 Pieces for 2 Violins and Piano (arr. M. Kobayakawa)

神原玲奈、シャオティ・グオ、湯浅恵美子、ティンル・ライ (ヴィオラ) 田中利恵 (ピアノ)

ロータ：間奏曲

Nino Rota : Intermezzo for Viola and Piano

大島亮 (ヴィオラ) 草冬香 (ピアノ)

ピアソラ：タンゴの歴史より 売春宿 1900、カフェ 1930/エスクアロ (小早川麻美子編)

Astor Piazzolla : Histoire du Tango, Escualo (arr. M. Kobayakawa)

ヘス・イ、ジウン・バク、ミンユ・シュ、ハヤン・バク

ティモシー・リダウト、ティンル・ライ、チンハン・リン、ジユ・シェン (ヴィオラ)

朝里クラッセ・サロンコンサート Salon Concert in Asari Classe Hotel

2019年1月10日(木) 18時開演 小樽朝里クラッセホテル 2F ナパイア

ブクステフーデ：トリオ・ソナタ 第1番 へ長調 BuxWV 252

Dieterich Buxtehude : Trio Sonata in F major, BuxWV 252

小笹文音 (ヴィオラ) 大槻晃士 (ヴィオラ・ダ・スパツラ) ポール・ウィアンコ (チェロ)

イザイ：悲劇的詩曲 作品12

Eugène Ysaÿe : Poème élégiaque

河相美帆 (ヴィオラ) 古賀大路 (ピアノ)

シューベルト：ソナチネ 第1番 二長調 D. 384

Franz Schubert : Sonatina in D major, No. 1 D. 384

ファイト・ヘルデンシュタイン (ヴィオラ) 草冬香 (ピアノ)

ブリテン：無伴奏チェロ組曲 第1番 作品72より (今井信子編)

Benjamin Britten : First Suite for Cello, Op. 72 (arr. N. Imai)

牧野葵美 (ヴィオラ)

ヒンデミット：ヴィオラ・ソナタ 作品25-4

Paul Hindemith : Viola Sonata, Op. 25, No. 4

須田祥子 (ヴィオラ) 草冬香 (ピアノ)

グラズノフ：エレジー 作品44

Alexander Glazunov : Elegie, Op. 44

廣狩亮 (ヴィオラ) 草冬香 (ピアノ)



▲ 1/12 札幌公演でピアソラを演奏する
ザ・イマイ・ヴィオラ・クアルテット

ニューイヤーコンサート in 札幌 New Year Concert in Sapporo

2019年1月12日(土) 13時30分開演 札幌コンサートホール・キタラ (小ホール)

J.S.バッハ：ブランデンブルク協奏曲 第3番 ト長調 BWV 1048 (小早川麻美子編)

Johann Sebastian Bach : Brandenburg Concerto No. 3 in G major, BWV 1048 (arr. M. Kobayakawa)

廣狩亮、湯浅恵美子、ジウン・バク、井上典子、山本成、ミンユ・シュ、ヘス・イ、ウェイ・ワン、ボシェン・リ、神原玲奈、

ピンキ・スエン、井上祐吾、山本由美子、シャオティ・グオ、杉本慧、大島亮、山本一輝、ハヤン・バク (ヴィオラ)

大槻晃士 (ヴィオラ・ダ・スパツラ) 奥泉貴圭 (チェロ)

マオー：シンフォニア 八短調 作品2-4 (大槻晃士編)

Antoine Mahaut : Sinfonia in C minor, Op. 2, No. 4 (arr. K. Otsuki)

大槻晃士 (指揮) 後藤和子、井上静香、ガボール・ザボ、永井公美子 (ヴァイオリン) 奥泉貴圭、ポール・ウィアンコ (チェロ)

湯浅恵美子、ハヤン・バク、ミンユ・シュ、桂田光理、ジウン・バク、シャオティ・グオ、ウェイ・ワン (ヴィオラ)

クルークハルト：《葦の歌》作品28より 第1曲、第2曲、第5曲

August Klughardt : Schilfflieder, Op. 28

島田真千子 (ヴァイオリン) 今井信子 (ヴィオラ) 草冬香 (ピアノ)

R.シュトラウス：四つの歌より《明日へ!》(ポール・ウィアンコ編)

Richard Strauss : Morgen! Op. 27, No. 4 (arr. P. Wiancko)

ピアソラ：ブエノスアイレスの春 (小早川麻美子編)

Astor Piazzolla : Primavera Porteña (arr. M. Kobayakawa)

小笹文音、須田祥子、鈴木慧悟、ウェンティン・カン、ハンナ・リー、大島亮、サリー・チズム (ヴィオラ)

ポール・ウィアンコ (チェロ) 草冬香 (ピアノ)

ピアソラ：リベルタンゴ/オブリビオン/フーガとミステリオ (三浦一馬編)

Astor Piazzolla : Libertango, Oblivion, Fuga y Misterio (arr. K. Miura)

今井信子、ウェンティン・カン、ニアン・リウ、ファイト・ヘルデンシュタイン (ヴィオラ) 三浦一馬 (バンドネオン)

***** 休憩 *****

プロコフィエフ：ロメオとジュリエット 作品64 (ワジム・ボリスフスキー、小早川麻美子編)

Sergei Prokofiev : Romeo and Juliet, Op. 64 (arr. V. Borisovsky, M. Kobayakawa)

ファイト・ヘルデンシュタイン、ジユ・シェン、小早川麻美子、田原綾子、辻菜々子、桂田光理、杉田恵理、牧野葵美、

ウェイティン・クオ、チンハン・リン、エンチ・チェン、須田祥子、小笹文音、河相美帆、山本由美子、今井信子、富澤直子 (ヴィオラ)

ポール・ウィアンコ、奥泉貴圭 (チェロ) 草冬香、高橋優介、古賀大路 (ピアノ)

グランドフィナーレ《ドン・ジョヴァンニ》 Grand Finale "Don Giovanni"

2019年1月14日(月・祝) 15時開演 小樽市民センター・マリナーホール

モーツァルト：歌劇《ドン・ジョヴァンニ》～器楽アンサンブルとマイムパフォーマンスによる

Wolfgang Amadeus Mozart : Don Giovanni, K. 527 (arr. M. Kobayakawa)

演出・丸山和彰 / 編曲・小早川麻美子

今井信子、大島亮、山本由美子、ファイト・ヘルデンシュタイン、ウェンティン・カン、サリー・チズム、小早川麻美子、

廣狩亮、井上典子、須田祥子、ウェイティン・クオ、小笹文音、牧野葵美、杉田恵理、河相美帆、神原玲奈、

許哲恵、富澤直子、ニアン・リウ、ハンナ・リー、

エンチ・チェン、ミンユ・シュ、井上祐吾、ボシェン・リ、チンハン・リン、シャオティ・グオ、桂田光理、ヘス・イ、ハヤン・バク、

ジウン・バク、ジユ・シェン、鈴木慧悟、田原綾子、辻菜々子、ウェイ・ワン、山本一輝、山本成、湯浅江美子、

ピンキ・スエン、杉本慧 (ヴィオラ)

ガボール・ザボ、後藤和子、林暉鈞、井上静香 (ヴァイオリン)

陳惠滙、シャオユウ・リウ (フルート)

奥泉貴圭、ポール・ウィアンコ (チェロ)

大槻晃士 (ヴィオラ・ダ・スパツラ)

草冬香、高橋優介、古賀大路 (ピアノ)

田中優希子、丸山和彰 (マイムパフォーマンス)

プログラム・ノート／河相 美帆

Programme Notes Miho Kawai 2013~15年度ゆらぎの里ヴィオラマスタークラス参加／フランクフルト音楽大学 修士課程

■1月6日 小樽市民センター・マリホール ニューイヤーコンサート in 小樽

ロベルト・シューマン：詩人の恋 作品48 (ヴィオラとピアノによる演奏)

ロマン主義を代表する作曲家ロベルト・シューマン(1810-1856)の生涯において、1840年は一般に「歌曲の年」と呼ばれています。最愛の人クララと結婚できた喜びがおよそ130もの歌曲となって結実したのです。16曲から成る連作歌曲集《詩人の恋》もそのうちの一つ。ハインリッヒ・ハイネの《叙情的間奏曲》から選ばれたテキストそのものに物語としての連続性はありませんが、シューマンは巧みな楽曲配置によって一人の詩人の内面世界を見事な繋がりを持って描き出しています。ただただ幸福な恋の始まりから、愛情の深まりとともに次第に内向的になっていく繊細な心を描いた前半6曲。失恋が決定的になった第7曲は意外なことに長調で、なんとか前向きに受け止めようとする複雑な気持ちが感じられます。後半は裏切られた怒りと苦悩を時に自嘲しながらも受け入れ、思い出へと昇華していくプロセスが描写されています。

ベーラ・バルトーク：ヴァイオリン・ソナタ 第2番 Sz. 76 (ヴィオラとピアノによる演奏)

現ルーマニア領ナジセントミクローシュに生まれ、ブダペストでピアノと作曲を学んだベーラ・バルトーク(1881-1945)は、1904年にトランシルヴァニア地方の家政婦が歌う民謡を耳にしたことがきっかけでハンガリー民謡の蒐集と研究に没頭するようになりました。科学的に分析した民謡のエッセンスを自作に取り入れるべく試行錯誤を続けていたバルトークは、1921年から22年にかけて作曲した二つのヴァイオリン・ソナタによって、その確かな手応えを得たとされています。第2番(1922)は途切れなく演奏される二つの楽章から成り、第1楽章は民謡風、第2楽章は民族舞踊風の主題が回帰する循環的な構造。楽曲全体を支配する複雑なリズムやハーモニーは、バルトークが民謡という小さな存在に見出していたであろう哲学的な広がりをおもわせます。

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ：ソナタ 第3番 ト短調 BWV 1029 (大槻晃士によるヴィオラ二重奏とチェロのための編曲)

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ(1685-1750)の三つのソナタ(BWV1027-1029)は、おそらくバッハがライプツィヒのトーマス教会のカントルを務めていた時期にヴィオラ・ダ・ガンバ*とチェンバロのために作曲されたと考えられています。第3番ト短調はバッハの対位法技術の至芸と言える作品。室内楽曲でありながら、合計3声部(チェンバロの左右の手とヴィオラ・ダ・ガンバ)が対等に渡り合う協奏曲のような技巧的華やかさを併せ持っています。エネルギーに満ちた第1楽章、ロ長調で書かれた美しい第2楽章、堂々としたフーガによる第3楽章から成ります。

*「脚のヴィオラ」を意味し、5~7本の弦を持ちチェロのように足の間に挟んで演奏される擦弦楽器。16世紀から18世紀にかけて広く愛好された。

ガース・ノックス：《スペインのフォリアに基づくマラン・マレ変奏曲》

現代音楽を専門とするヴィオラ奏者としてキャリアをスタートしたガース・ノックス(1956-)は、今やヴィオラ・ダ・モーレでルネサンスからバロック時代の音楽を自由自在に演奏するだけでなく、作曲家として私たちの固定観念を軽々と飛び越える作品を生み出すヴィオラ界の鬼才です。《スペインのフォリアに基づくマラン・マレ変奏曲》(2007)は、ルイ14世の宮廷ヴィオール奏者だったマラン・マレの《ラ・フォリア》の主題に基づく変奏曲。各変奏一つの特徴奏法——フラジオレット、ピチカート、グリッサンド、トレモロ等々——にフューチャーし、フォリア(「狂気・常軌を逸した」という意味)そのもののエキサイティングな音楽を展開します。

ドミートリイ・ショスタコーヴィチ：五つの小品
(小早川麻美子によるヴィオラ二重奏とピアノのための編曲)

社会主義の体制と闘いながら作品を発表し続けたドミートリイ・ショスタコーヴィチ(1906-1975)。メッセージ性の強い交響曲や弦楽四重奏曲は特に有名ですが、映画やアニメなどのためのいわゆるポピュラー音楽も多く手掛けています。皮肉や悲哀、ユーモアやロマンチズムといった人間くさい感情がダイレクトに表現されたこれらの作品は、ショスタコーヴィチという作曲家の多面性を私たちに示しています。彼が信頼を置いていたという友人のレオン・アトヴマンは、そんな魅力あふれるショスタコーヴィチの娯乐的音楽作品から5曲を選び、ヴァイオリン・デュオとピアノのために編曲しました。ロマンチックなプレリュードは映画《馬あぶ》、コミカルなガボットと甘やかなエレジーの2曲は舞台《人間喜劇》、悲哀を感じさせるワルツはアニメ《司祭と下男バルダの物語》、そしてユーモラスかつスピーディーなポルカはバレエ《明るい小川》を原作としています。

ニーノ・ロータ：間奏曲

フランシス・フォード・ Coppola の《ゴッドファーザー》、フェデリコ・フェリーニの《道》、フランコ・ゼフィレリ《ロミオとジュリエット》…。イタリア映画史に燦然と輝く数々の名作の音楽を手掛けたニーノ・ロータ(1911-1979)は、生涯にわたってクラシック音楽の作曲家を自認し、

映画音楽の分野で成功を収めた後もコンサート・ホールやオペラ・ハウスのための作品を書き続けました。

特筆すべきは楽器の個性を巧みに活かした器楽曲。《間奏曲》(1945)でも、渋みや仄暗さ、しなやかな強さ等々、多くの魅力的な表情がヴィオラという楽器から引き出されています。哀愁漂う旋律が切々と歌われる主部と厳かな行進曲風のテーマが変奏される中間部から成るシンプルな三部形式の楽曲構造に、先の展開を期待させる楽節の繋ぎ方などストーリーテラーとしてのセンスが光ります。もしこの作品がロータ監督によるヴィオラが主人公の映画だとするならば、皆さまはどのような物語を想像されるでしょうか。

アストル・ピアソラ：売春宿1900、カフェ1930、エスクアロ (小早川麻美子によるヴィオラ四重奏のための編曲)

アルゼンチンの作曲家アストル・ピアソラ(1921-1992)は、ジャズの要素や西洋音楽の伝統をタンゴ音楽に反映させた独自の作風でタンゴ界のみならず20世紀後半の西洋音楽界に新風を巻き起こしました。

《タンゴの歴史》(1986)はその名の通り、19世紀末のブエノス・アイレスで生まれたタンゴという場末の踊りが一つの芸術として確立されていく過程を四つの時代に分けて描いた作品です。原曲はフルートとギターという珍しい組み合わせ。これはピアソラ曰く、タンゴがブエノス・アイレスで初めて演奏されたときの編成だということです。売春宿を訪れた男を値踏みする娼婦たちのおしゃべりを描写した《売春宿1900》は、軽快なバルマ(手拍子)が聞こえてきそうな「舞踊」としてのタンゴ。ゆったりとしたテンポの2曲目《カフェ1930》は、時の流れとともに歌唱曲としても楽しめるようになった「歌」としてのドラマティックなタンゴです。

ピアソラが率いていた五重奏団のヴァイオリニスト、フェルナンデス・スアレス・パスのために作曲された《エスクアロ》(1979)は、ピアソラの趣味でもあった鮫釣のダイナミズムとスリルを描いています。

▲ニューイヤーコンサート2015で共演した草冬香と田中利恵

■1月10日 小樽・朝里クラッセホテル 2F ナパイア サロンコンサート

ディートリヒ・ブクステフーデ:トリオ・ソナタ 第1番 へ長調 BuxWV 252

ディートリヒ・ブクステフーデ(c.1637-1707)は、その生涯の大半をハンザ同盟で栄えたドイツ北部の都市リューベックの聖母マリア教会のオルガニストとして過ごしました。銘器の誉れ高い大オルガンを自在に操る演奏は当時から広く知られており、かのヨハン・ゼバスティアン・バッハもブクステフーデに師事するべく、青年時代に4ヶ月間リューベックに滞在しています。

ヴァイオリンとヴィオラ・ダ・ガンバ、通奏低音のための《七つのトリオ・ソナタ》作品1は、1694年にリューベック市長に献呈されました。第1番は緩・急・緩・急の4楽章から成り、各楽章の終結部で楽想が大きく変化するユニークな構造を持ちます。この大胆な転換が時にミステリアスな雰囲気を、時にオペラのようなドラマ性を創出し作品に広がりをもたらしています。即興演奏で名を馳せたブクステフーデの想像力がここでも自由に羽ばたいていると言えるでしょう。

ウジェーヌ・イザイ:悲劇的詩曲 作品12 (ヴィオラとピアノによる演奏)

「King of Violin」と称された偉大なヴァイオリニスト、ウジェーヌ・イザイ(1858-1931)。無伴奏ヴァイオリン・ソナタという不朽の名作によって作曲家としても歴史にその名を残しています。エルネスト・ショーソンの《詩曲》からの強い影響がみられる本作品は、シェイクスピアの《ロメオとジュリエット》の物語を題材としています。

イザイ自身の言葉によれば、幕開けはロメオとジュリエットが亡くなった後の世界。教会の鐘の音とともに私たちは二人のお葬式の場面へと誘われます。重々しい葬送のテーマがワルツに転じ次第に高揚していく様は、恋が始まり悲劇へと向かって加速していく物語の流れそのもの。そして激しい衝撃と静寂。冒頭の主題が再び始まり、私たちは現実の世界へと引き戻されたことに気がつくのです。原曲ではヴァイオリンのG線を一度低いFに調弦するスコルダトゥーラの技法が用いられており、華やかな技巧だけでなく朗々と響く低音が大きな魅力となっています。

フランツ・シューベルト:ソナチネ 第1番 二長調 D. 384 (ヴィオラとピアノによる演奏)

フランツ・シューベルト(1797-1828)が彼の才能を愛する友人の後押しと協力を受けて教師の職を手放したのは、1816年、彼がわずか19歳のとき。これ以後は一度も定職に就くことなく、友の家を転々とするボヘミアンのような生活を送りながら膨大な数の作品を残しました。「小さいソナタ」を意味するソナチネと題された本作品は、フリーランスになった年の作。どこかユーモラスな主題が転調を繰り返しながら展開する第1楽章では、二つの楽器のユニゾンが楽曲にピリリとした緊張感とささやかな威厳を加えています。第2楽章は付点のリズムが可愛らしいのどかな印象の主部と、イ短調のメランコリックな旋律が美しい中間部から成る三部形式。ロンド形式の第3楽章は、突然の強弱変化や不意に訪れるちょっとした間に、シューベルトの遊び心が感じられます。友人に囲まれて楽しそうに音楽を奏でるシューベルトの姿が目に見えかぶようです。

ベンジャミン・ブリテン:チェロ組曲 第1番 作品72 (今井信子によるヴィオラ独奏版)

20世紀イギリスを代表する作曲家ベンジャミン・ブリテン(1913-1976)。1960年にショスタコーヴィチのチェロ協奏曲イギリス初演の場に立ち会ったブリテンは、独奏者を務めるチェロ界の巨匠ムスティスラフ・ロストロポーヴィチの壮大な音楽性に強い感銘を受けます。優れたピアニスト、指揮者でもあったブリテンはこれ以降度々ロストロポーヴィチと共演を重ねながら、晩年にかけてチェロのための傑作を次々に生み出していきました。1964年に作曲された無伴奏チェロ組曲第1番は九つの楽章から成りますが、「歌 Canto」と題された共通の主題を持つ1・4・7・9楽章の存在によって、全楽章を一つのロンド形式として捉えうる大きな骨格を持っています。開放弦の豊かな響きを活かした「歌」は楽章が進むごとに暗く深く沈んでいき、終楽章の激しい音のうねりの最中に一筋の光のように再び力強く現れます。光と闇、美と醜といった両極の存在を感じさせる、ブリテンらしい哲学性に富んだ一曲です。

パウル・ヒンデミット:ヴィオラ・ソナタ 作品25-4

第1次世界大戦後のドイツでは、熟しすぎた表現主義への反発から客観的・冷静な表現を目指す新即物主義が勃興。1919年に戦争から復員したパウル・ヒンデミット(1895-1963)は音楽分野における新即物主義の旗手と目され、ヴィオラのソロ・室内楽奏者として活躍しながら意欲的な作品を次々に発表していきました。

1922年に作曲されたヴィオラとピアノのためのソナタ作品25-4は、古典的なソナタの様式に則った明晰な筆致ながら若々しく激しいエネルギーがほとぼしる満足度の高い一品です。第1楽章は機械的に刻まれるリズムの上で、動と静という対照的な二つの主題が緻密に構築されていくソナタ形式。第2楽章は静謐な佇まいながら、内に秘めた激しい感情が吐露されます。第3楽章は打楽器的な力強いリズムが聴き手の高揚感をあおる燃焼度の高いフィナーレです

■1月12日 札幌コンサートホール・キタラ (小ホール) ニューイヤーコンサート in 札幌

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ:ブランデンブルク協奏曲 第3番ト長調 BWV 1048 (小早川麻美子によるヴィオラ六重奏とチェロのための編曲)

1717年から23年までヨハン・ゼバスティアン・バッハ(1685-1750)が楽長を務めていたケーテンの宮廷楽団には、音楽好きの領主の影響で当代きっての名手が揃っていました。概ねこの時期に作曲されたとされる六つの協奏曲を収めた《ブランデンブルク協奏曲集》は、有能な同僚の演奏を想像しながら作曲したであろう華やかなソロ・パートもさることながら、サポートする合奏パートも音楽を奏でる愉しみで溢れており、恵まれた環境下でのバッハの音楽活動の充実を思わせます。

第3番はヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ各3部、合計9人のソリストを擁する弦楽器のための協奏曲。第1楽章はTutti(総奏)によって奏でられる堂々とした主題と、ソリストが次々にモチーフを交換し合う独奏部分との対比が鮮やかなリトルネロ形式。楽譜に記されたわずか二つの和音を基に即興される第2楽章を経て、音階が美しい山形を描く颯爽とした第3楽章に突入します。

アレクサンドル・グラスノフ:エレジー 作品44

裕福な出版業者の家庭に生まれたアレクサンドル・グラスノフ(1865-1936)は、9歳でピアノを、13歳で作曲を学び始めました。わずか14歳で管弦楽法の大家であるリムスキー＝コルサコフの門弟となることを許されると、ロシア国民楽派の大らかな民族的情緒とチャイコフスキーの流れを汲む西欧派のエレガンスとを融和させた作風で確固たる地位を築きます。1905年に就任したペテルブルク音楽院の教授として音楽院の改革に携わり、ロシア近代音楽の発展にも尽力しました。

《エレジー》作品44(1893)は、三つの交響曲やバレエ《ライモンダ》などの大作で評価を集めていた成熟期の作。バルカローレ風の軽やかなリズムに乗って、哀愁漂う旋律が豊かに歌われます。ロシアの大草原に吹き渡る春風のような、優しい表情の中間部も魅力的です。

アントワーヌ・マオー:シンフォニア ハ短調 作品2-4 (大概晃士によるヴァイオリン、ヴィオラ、チェロのための編曲)

ベルギーに生まれ、オランダとフランスで活動した作曲家・フルーティストのアントワーヌ・マオー(c.1719-1785)。彼が生きた時代はバロックから古典派への過渡期にあたり、とりわけ器楽曲の分野で実験と変革が繰り返されました。こうした歴史の文脈においてフランドル地方を中心に活動したマオーの作品は、国際的な存在としてハイドンやモーツァルトに影響を与えたと言われています。シンフォニアとはバロック期のオペラやオラトリオの幕開けを飾ったイタリア風序曲のこと。短い三つの楽章から成り、交響曲(シンフォニー)の母体となりました。マオーの《シンフォニア》作品2 ハ短調 (1751)は、第1楽章の後半で主題が鏡のように逆行したり第2・3楽章において強弱を利用したエコーが随所に見られたりと、モチーフが緻密に配された端正な作品で、どこかフェルメールなど17世紀オランダ絵画の正確な遠近法を思わせます。

アウグスト・クルークハルト：《葦の歌》作品28より 第1, 2, 5曲

アウグスト・クルークハルト(1847-1902)は東部ドイツを中心に指揮者として活動しながら、リストやワーグナーの強い影響下に創作活動を行った作曲家。

オーボエ(またはヴァイオリン)とヴィオラ、ピアノのための三重奏曲《葦の歌》(1872)は、ロマン主義抒情詩の大家ニコラウス・レーナウの同名の連作詩集に基づく標題音楽です。人間の感情を自然の風物と巧みに結びつけたレーナウの言葉の世界を、クルークハルトはライト・モチーフ*の手法を用いて豊かに描写しています。

今日は全5曲より抜粋で、水辺の葦が風にそよぐ様を哀しみに震える心と重ねるメランコリックな第1楽章、嵐で波立つ湖水に失われた愛の行方を尋ねる焦燥感を描いた第2楽章、月の光がやさしく降りそそぐ池の端で、叶わぬ想いをそっと胸におさめる内省的な第5楽章をお聴き頂きます。

*オペラや交響詩において特定のキャラクターや場面と結びつけられた短い主題や動機のこと

リヒャルト・シュトラウス：四つの歌 作品27より 《明日へ!》(ポール・ウィアンコによる独奏ヴィオラと ヴィオラ、チェロ、ピアノのための編曲)

ミュンヘンの宮廷歌劇場首席ホルン奏者の息子として生まれたリヒャルト・シュトラウス(1864-1949)。父から徹底的な英才教育を受け、6歳の頃には既に作曲を始めたという幼少期は神童モーツァルトを彷彿とさせます。実際に彼はこの後の人生において、交響詩とオペラの両分野で成功を収める一大作曲家へと成長していきました。ハンス・フォン・ビューローの後任として指揮活動も開始したシュトラウスは、任地ワイマールの宮廷歌劇場でソプラノ歌手パウリーネ・デ・アーナと出会い1864年に結婚します。同年にワーグナーの楽劇《タンホイザー》でパイロイト音楽祭のデビューを飾った時には、パウリーネがヒロイン役を務めました。彼女への贈り物として作曲された《明日へ!》は、《4つの歌曲》作品27の最後に収められています。ジョン・ヘンリー・マッケイの詩に付けられた繊細な音楽は、まるで宝石のような輝きを放っています。

アストル・ピアソラ：ブエノスアイレスの春 (小早川麻美子によるヴィオラ七重奏とチェロ、ピアノの ための編曲)

イタリア系移民3世の子供としてアルゼンチンのブエノスアイレスに生まれたアストル・ピアソラ(1921-1992)は、気鋭のバンドネオン奏者として活躍しながら同郷の作曲家アルベルト・ヒナステラやフランスの名教師ナディア・ブーランジェに師事し、タンゴ音楽の可能性を追求した斬新な作品を次々に発表していきました。

1965年に舞台劇《金の垂れ髪》の付随音楽として《ブエノスアイレスの夏》を作曲したピアソラは、その後《秋》(1969)を手がけた時に「四季」としてのシリーズ化を決意。《冬》に続いて最後に作曲された《ブエノスアイレスの春》(1970)は、力強いシンコペーションのオスティナートの上に不協和音が叩きつけられる冒頭部分と、ノスタルジックな旋律がクラシカルな響きの中で切々と歌われる中間部とのコントラストが鮮烈な一品です。

アストル・ピアソラ：リベルタンゴ、オブリビオン、 フーガとミステリオ (三浦一馬によるヴィオラ四重奏と バンドネオンのための編曲)

ピアソラ自身の造語で「自由なタンゴ」を意味する《リベルタンゴ》(1974)は、「タンゴの革命児」と呼ばれたピアソラを象徴する作品。3・3・2のリズムを持つ執拗なリフレインの上で、一度聴いたら忘れられない情熱的な旋律が奏でられます。

《オブリビオン》は、1984年に公開されたイタリア映画《エンリコ4世》のために作曲されました。落馬事故のショックで記憶を失い、自らを皇帝だと思い込む男性を描いた映画自体は話題になりませんでした。往年の歌姫ミルバがフランス語の歌詞を付けて歌ったところ大ヒット。ミロンガと呼ばれるゆっくりとしたシンコペーションのリズムに乗って、忘却の哀しみが切々と歌われます。

ピアソラの最高傑作とのか呼び声高いタンゴ・オペリータ《ブエノスアイレスのマリア》(1968)は、マリアという女性の悲惨な生涯を描いています。実はマリアはタンゴという踊りを擬人化した存在で、タンゴが移民たちの過酷な暮らしの中から生まれ確立されるまでの歴史をマリアの人生と重ね合わせて表現しています。《フーガとミステリオ》はこのオペラの中の一曲。アップテンポのフーガに

始まり感情的なアリアに転換する2部構成です。

セルゲイ・プロコフィエフ：ロメオとジュリエット (ワジム・ボリソフスキーによるヴィオラとピアノのため の編曲、小早川麻美子による五重奏版)

近代ロシア音楽の大家セルゲイ・プロコフィエフ(1891-1953)が音楽を手掛けたバレエ《ロメオとジュリエット》(1935)は、ドラマティック・バレエ*の傑作として今日世界中で上演を重ねています。今日は全52曲の原作から特に人気の高い15曲——第1幕よりこれから始まる物語への期待が膨らむ《序曲》、物語の舞台ヴェローナの《街の目覚め》、キャピュレット家の一人娘ジュリエットの魅力が多面的に表現された《少女ジュリエット》、舞踏会開始前のソワソワした雰囲気を描写した《客人たちの到着》、キャピュレット家の強硬的な家風を象徴する

■1月14日 小樽市民センター・マリナーホール グランドフィナーレ《ドン・ジョヴァンニ》

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト： ドン・ジョヴァンニ K. 527 (小早川麻美子による編曲)

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756-91)のオペラ《罰せられた放蕩者またはドン・ジョヴァンニ》通称《ドン・ジョヴァンニ》は、前作《フィガロの結婚》が大ヒットしたプラハの劇場からの委嘱を受け、1787年に作曲されました。《フィガロの結婚》や《コジ・ファン・トゥッテ》でもタッグを組んだロレンツォ・ダ・ポンテの台本による、イタリア語のドラマ・ジョコーソ＝「おどけたドラマ」です。イタリアで640人ドイツで231人、100人がフランスでトルコでは91人、スペインでは1003人(!)もの女性と浮名を流した貴族ドン・ジョヴァンニが、17世紀のスペインはセビージャを舞台に繰り広げるドタバタ劇は確かに喜劇的ではあるものの、ドン・ジョヴァンニに父を殺されたドンナ・アンナの慟哭や、何度裏切られてもドン・ジョヴァンニを愛し続けるドンナ・エルヴィーラの切実な想い、そして天罰が下ったドン・ジョヴァンニが地獄へ連れ去られる結末など、単なるオペラ・ブッフアを超えた重みと迫力を内包しています。まさに天才モーツァルトの名にふさわしい傑作だと言えるでしょう。

舞劇《騎士たちの踊り》、ロメオの親友を描く《マキューシオ》、恋に落ちたロメオとジュリエットのロマンチックな《バルコニー・シーン》。第2幕より街の広場での賑やかな《カーニバル》、《マンドリンを手にした踊り》、両家の和解を願い二人の結婚を後押しするローレンス僧とロメオの対話を描く《ローレンス僧の庵にて》、ティボルトとの決闘で命を落とす《マキューシオの死》。第3幕より《朝の歌》、第4幕よりメドレーで《ロメオとジュリエットの別れ》仮死薬を飲んだジュリエットの葬儀の場面《ジュリエットの葬式》、仮死から目覚めロメオの死を知ったジュリエットが自らの命を絶つ《ジュリエットの死》——をお聴き頂きます。

*踊りとマイム(演技)が明確に区別されている伝統的なクラシック・バレエに対し、演劇性の強いダンスによって物語が進行していくバレエ

今井信子は昨年1月に北海道新聞からインタビューを受けた際に、2017年2月に北海道下川町で行われた北の星座音楽祭で室内楽と演劇によってドン・ジョヴァンニが上演された時の様子を聞き、本公演の構想を得ました。小早川麻美子の編曲と丸山和彰の演出、世界中から集った50名を超える音楽家たちによって、《ドン・ジョヴァンニ》の世界がここ小樽で蘇ります。小樽ヴィオラ・マスタークラスのグランドフィナーレを飾る、一度限りの舞台をどうぞお楽しみください。



▲ 2015年ニューイヤークンサートのアンコール。左より大島亮、今井信子、河相美帆、中恵菜、草冬香、奥泉貴圭。

プロフィール Profiles



■ 講師／ヴィオラ

今井 信子 Nobuko Imai

東京生まれ。国際的ヴィオラ奏者として、ソロや室内楽で活躍、CD録音は50タイトルに及ぶ。ヴィオラのための音楽祭<ヴィオラスペース>や<東京国際ヴィオラコンクール>の創設など、世界の音楽界を牽引してきた。その功績に対しサントリー音楽賞、文化庁芸術選奨文部大臣賞、紫綬褒章、旭日小褒章など数多くの賞が贈られる。現在アムステルダム音楽院、クロンベルク・アカデミー、ソフィア王妃高等音楽院、上野学園大学で後進の指導も行っている。2003年ミケランジェロ弦楽四重奏団結成。2004年より小樽で「ゆらぎの里ヴィオラマスタークラス」講師を務め、2012年より小樽ふれあい観光大使。



■ 講師／バロック・スペシャリスト

大槻 晃士 Koji Otsuki

米国テンプル大学大学院合唱指揮科、東京藝術大学大学院古楽科（バッハ研究留学）、インディアナ大学古楽科博士課程にて学ぶ。テンプル大学での指揮法講師を経て、現在は古楽アンサンブルの客演指揮、バロック音楽の講師やコンサルタントとして、またヴィオラ・ダ・ス帕ラ奏者としての活動に勤む一方、米国マルボロ音楽祭で音楽司書長として芸術監督内田光子氏らのサポートに従事。近年は当音楽祭でバッハ・カンタータの指導に尽力する。バッハを鈴木雅明とヘルムート・リリンクに、バロックヴァイオリンを若松夏美とスタンリー・リッチーに、古楽アンサンブルを鈴木秀美の各氏にそれぞれ師事。東京と米国フィラデルフィアでガムット・バッハ・アンサンブル主宰。現在フィラデルフィア在住。



■ 編曲／ヴィオラ

小早川 麻美子 Mamiko Kobayakawa

桐朋学園芸術短期大学ヴィオラ専修卒業。今井信子氏の推薦により同氏が教授を務める上野学園大学に研究生として 2010から2012年次在籍。編曲を野平多美氏に師事。2011年より編曲に着手し、バロックからロマン派を中心とした数々の名曲をヴィオラをメインにした室内楽曲にアレンジ、国内外の数々の音楽祭や演奏家に作品を提供。サントリーホールやブルーノートでの独創的な演奏会企画にも注力している。



■ 専属ピアニスト

草 冬香 Fuyuka Kusa

東京芸術大学、同大学院修士課程修了。ドイツ国立フライブルク音楽大学ディプロム課程およびソリスト課程をそれぞれ最優秀の成績で卒業、国家演奏家資格を取得。第4回ローゼンストック国際ピアノコンクール第1位、アルトゥール・レプティエール国際ピアノコンクール第1位等受賞多数。ブダペスト春の音楽祭、モーツァルト音楽祭、国内では軽井沢八月祭、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン、ヴィオラスペース、ハンガリーラジオ、NHK・BSクラシック倶楽部等に出演。ソロだけでなく、室内楽においても意欲的に活動、東京国際ヴィオラコンクールでは、公式ピアニストを務めている。東京藝術大学非常勤講師を経て、現在洗足学園音楽大学非常勤講師。これまでに、杉本安子、渡部有子、小林仁、伊藤恵、ギルアド・ミシヨリの各氏に師事。



■ ヴィオラ・アシスタント

ファイト・ヘルテンシュタイン

Veit Hertenstein （1月8日出演）

ジュネーヴ音楽院において今井信子にヴィオラを、タカーチ四重奏団に室内楽を学ぶ。2009年、第1回東京国際ヴィオラコンクールにて第3位と聴衆賞、同年ヨーロッパ放送連合コンクールで第1位。2011年ヤングコンサートアーティスト国際オーディション最優秀賞受賞。ヴェルビエ音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ音楽祭、東京のヴィオラスペース等に参加。現在はバーゼル交響楽団首席ヴィオラ奏者、ドイツ・デトモルト音楽大学教授。



大島 亮 Ryo Oshima

桐朋学園大学卒、同大学研究科修了。岡田伸夫氏に師事。また、故ムスティスラフ・ロストロポーヴィチ、ロバート・マン各氏等の指導を受ける。第11回コンセール・マロニエ21、第7回東京音楽コンクールにて第1位、第42回マルクノイキルヘン国際コンクールディプロマ賞受賞。2012年には東京文化会館にて初のリサイタルを開催し、好評を博した。室内楽奏者としても積極的に活動するほか、秋吉台室内楽セミナーで講師を務めるなど後進の指導にもあたっている。2015年4月より神奈川フィルハーモニー管弦楽団首席奏者。



山本 由美子 Yumiko Yamamoto

桐朋学園大学音楽学部卒業後、デトモルト国立音楽大学、ケルン国立音楽大学マスターコースにて、ヴィオラをブルーノ・ジュランナ、ライナー・モーク、今井信子、室内楽をアマデウス弦楽四重奏団に師事。1981年、ウォルフガングホックコンクール第1位、1982年、ジュネーブ国際コンクール銅メダル。1998年度バロックザール賞受賞。1983年、西ドイツ国家演奏家資格取得。現在京都市立芸術大学音楽学部非常勤講師、相愛大学音楽学部非常勤講師。



ウェンティン・カン Wenting Kang

ニューイングランド音楽院にて、ガース・ノックス、キム・カシュカシアンに、クロンベルク・アカデミーで今井信子に師事。2012年第2回東京国際ヴィオラコンクール第1位受賞以来、世界各地でキャリアを重ねている期待の若手ヴィオラ奏者。大らかに艶のある音色と精緻でエレガントな演奏に定評がある。2016年1月には大阪と東京で無伴奏リサイタルを成功に導く。同年2月よりマドリッドに居を移し、演奏活動の傍ら、ソフィア王妃高等音楽院にて、今井信子のアシスタントを務めている。



サリー・チズム Sally Chisholm

プロ・アルテ四重奏団のヴィオラ奏者であり、米ウイスコンシン大学マジソン校のヴィオラ教授。ワルシャワのウロンスキー国際ヴァイオリンコンクールの審査員をつとめ、スイスの Festival Der Zukunft に20年間出演、シェーンフェールド、ボルコム、シェイピーなどアメリカ現代作曲家の数多くの初演に携わっている。またシカゴのジョフリー・バレエ団首席ヴィオラ奏者であり、チャールズ・ナイディック、レオン・フライシャー、ピーター・ウイレイ、今井信子らと共に、ミネソタ室内楽協会の常任理事も務めている。



■ ピアノ・アシスタント

古賀 大路 Taiji Koga

上野学園大学音楽専攻科卒業。第63回全日本学生音楽コンクール高校の部東京大会第1位、全国第3位並びに横浜市民賞受賞。2011年第80回日本音楽コンクール第3位。これまでに九州交響楽団・名古屋フィルハーモニー交響楽団・東京交響楽団などと共演。永富啓子・横山幸雄・今野尚美・宮本玲奈・干野宜大・田中照子の各氏に師事。



高橋 優介 Yusuke Takahashi

上野学園高等学校、同大学音楽学部音楽学科演奏家コース、同大学専攻科にて8年間研鑽を積む。第10回東京音楽コンクールピアノ部門第1位及び聴衆賞。芸術・文化若い芽を育てる会第5回奨学生。これまでに前橋汀子、矢部達哉、今井信子、波多野睦美の各氏と共演。ピアノを齋藤由里子、横山真子、宮本玲奈、横山幸雄、久保春代、川田健太郎の各氏に師事。



■ ゲスト／ピアノ（1/6出演）

田中 利恵 Rie Tanaka

東京藝術大学音楽学部、同大学院修士課程器楽科卒、オランダ国費留学生としてアムステルダム・コンセルバトリウムに留学し首席・特別賞にて卒業、室内楽科も修了。国際モーツァルトコンクール派遣者選抜演奏会第1位、ロツテルダム・エドゥアルド・フリップセ・ピアノコンクール第1位など数々の賞を受賞。現在アムステルダムを中心として、コンサートへボウをはじめ、20カ国以上でのソロ、室内楽と、幅広い演奏活動を続ける。



■ ゲスト卒業生／ヴィオラ（1/10, 12, 14出演）

廣狩 亮 Akira Hirokari

東京藝術大学音楽学部卒業。東京現代音楽祭室内楽コンクール ムーサ弦楽四重奏団で第1位、第1回朝日現音賞（現・朝日現代音楽賞）、日本コロムビア特別賞を受賞。東京国際室内楽コンクールをムーサ弦楽四重奏団で第2位、ルフトハンザ賞受賞。ソリストとして広島交響楽団、札幌交響楽団と共演の他、木曾音楽祭、倉敷音楽祭に出演。現在は札幌交響楽団首席奏者、北海道教育大学岩見沢校非常勤講師。



■ ゲスト卒業生／ヴィオラ（1/11, 12, 14出演）

井上 典子 Noriko Inoue

桐朋学園大学卒。フランス、リヨン国立高等音楽院第3課程修了、またドイツのフライブルク音楽大学でも研鑽を積む。2005年よりフランス国立管弦楽団、またアルデオ弦楽四重奏団のメンバーを務め、ヨーロッパ各地で演奏会を行う。店村真積、タツノ・アダモプロス、ヴォルフラム・クリストの各氏に師事。2016年12月より新日本フィルハーモニー交響楽団首席奏者。



■ ゲスト卒業生／ヴィオラ（1/10, 12, 14出演）

河相 美帆 Miho Kawai

桐朋学園大学卒業後ソフィア王妃高等音楽院にて今井信子、Wenting Kangの各氏に師事。現在フランクフルト音楽大学修士課程に在籍し、Ingrid Zur氏に師事。ソフィア王妃高等音楽院にてSobresaliente賞を受賞。Citta di Cremona国際

ヴィオラコンクールのセミファイナリスト。マルクノイキルヘン国際コンクールにてディプロマを取得。フランクフルト市立歌劇場専属オーケストラや Spira Mirabilis、Ensemble Modern の客演奏者を務めるほか、ソリストとして Mainzer Virtuosi と共演を重ねる等、欧州にて活動の場を拡げている。



■ ゲスト卒業生／ヴィオラ（1/6, 12, 14出演）

神原 玲奈 Rena Kohara

相愛大学を卒業後、スイスに渡りバーゼル音楽院とルツェルン大学院にてスイス連邦国家演奏家資格を取得、2つの修士課程を修了する。国内及びヨーロッパの様々な音楽祭に出演。欧州各地にてソロ及び室内楽の指導、こどものためのコンサートそしてアートワークショップを主催してきた。2016年に日本へ完全帰国、神戸を中心に活動を展開している。



■ ゲスト卒業生／ヴィオラ（1/10, 11, 12, 14出演）

小笹 文音 Ayane Kozasa

クリーブランド音楽院、カーティス音楽院及びドイツ、クロンベルグアカデミー卒業。2011年にプリムローズ国際ヴィオラコンクール優勝、12年S&Rワシントン賞受賞。2012から16年まで、フィラデルフィア室内管弦楽団の首席奏者を務め、フィラデルフィア管弦楽団やオルフェウス室内管弦楽団など著名なアンサンブルと共演した。2012年アイズリカルテットを結成。アイズリカルテットは、15年ロンドンウィグモアホール国際室内楽コンクール入賞、17年大阪国際室内楽コンクール優勝、18年ミシガン大学主催Mプライズコンペティションにおいても優勝している。2017～18年、ニューヨークメトロポリタン美術館のレジデンシーを務めた。



■ ゲスト卒業生／ヴィオラ（1/10, 12, 13, 14出演）

ウェイティン・クオ Wei-Ting Kuo

台湾出身。2011年から14年までミルウォーキー交響楽団で副主席を務め、現在はリッカルド・ムーティエが音楽監督を務めるシカゴ交響楽団メンバー。24歳で渡米、学生時代にタオス音楽祭、ラビニア音楽祭、ヴェルビエフェスティバル・アカデミーに招待され、08年プリムローズ国際ヴィオラコンクールのファイナリスト、09年の東京国際ヴィオラコンクールで優秀賞を受賞。ソリスト、室内楽奏者としても活躍し、今井信子とのアンサンブルでアジアツアーにも招聘され、14年にはミルウォーキー交響楽団との協奏曲ではソリストを務めた。



■ ゲスト卒業生／ヴィオラ（1/10, 12, 14出演）

牧野 葵美 Kimi Makino

相愛大学音楽学部卒業後、ロームミュージックファンデーション奨学生としてジュネーヴ音楽大学を卒業。イギリス・王立ノーザン音楽大学マスター課程を特別奨学生として卒業。2012年第2回東京国際ヴィオラコンクール第3位受賞、京都青山音楽賞・新人賞受賞。紀尾井ホール“明日への扉”シリーズ出演をはじめ、いずみホール、兵庫県立芸術文化センター、トッパンホール、青山音楽記念館での演奏会が好評を博す。ヴィオラを松実健太、山本由美子、Miguel Da Silva、ガース・ノックス、今井信子の各氏に師事。現在、イギリス・マンチェスターに在住。17年よりBBCフィルハーモニック副首席奏者。



■ゲスト卒業生／ヴィオラ (1/11, 12, 14出演)

杉田 恵理 Eri Sugita

桐朋学園大学、クロンベルクアカデミー、ベルリン芸術大学、ハノーファー音楽大学卒業。カルテット・ベルリン・トウキョウ創設メンバー。現在フィンランド放送交響楽団に在籍。2012年ARDミュンヘン国際コンクール弦楽四重奏部門特別賞。14年オーランド国際コンクール第1位。15年シュールベルトと現代音楽国際コンクール第3位。ニールセン国際室内楽コンクール第2位。ヴィオラを岡田伸夫、今井信子、ハルトムート・ローデ、アミハイ・グロスの各氏、弦楽四重奏をオリヴァー・ヴィレ氏に師事。ソリストとして大阪フィルハーモニー交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団他と共演。



■ゲスト卒業生／ヴィオラ (1/10, 12, 14出演)

須田 祥子 Sachiko Suda

桐朋学園大学を首席で卒業。室谷高廣、岡田伸夫の各氏に師事。第23回ヴィットリオ・グイ国際コンクールを始めとする多数のコンクールで第1位優勝。2015年5月の「題名のない音楽会」及び2016年11月の「らららクラシック」のヴィオラ特集、同月の「題名のない音楽会」の「弦楽四重奏特集」に出演。また2016年1月には「報道ステーション」で白川水柱群の前からヴィオラだけのソロ演奏が生中継された。現在、東京フィルハーモニー交響楽団首席奏者、「アクロス弦楽合奏団」「ザ・シンフォニエッタみよし」のメンバーを務める他、ピオラ演奏集団「SDA48」を主宰。洗足学園音楽大学非常勤講師。CD「ピオラは歌う」シリーズをリリース。

■ゲスト／ヴィオラ (1/11, 12, 14出演)

ハンナ・リー Hanna Lee

韓国芸術総合学校、カーティス音楽院、ニューイングランド音楽院、クロンベルク・アカデミーを卒業。スニ=ファ・オ、サンジン・キム、ロベルト・ディアス、キム・カシユカシャン、今井信子の各氏に師事。Kallaci弦楽四重奏団、クムホ・アジアナ・ソロイスト、オーパス・アンサンブル、ロマン・ギユイオ・アンサンブルのメンバー。室内楽奏者やソリストとして、韓国、日本、欧米の音楽祭に招かれ国際的に活動。現在は韓国芸術総合学校とヨンセイ大学で教鞭をとっている。



■ゲスト／ヴィオラ (1/11, 12, 13, 14出演)

ニアン・リウ Nian Liu

ソリスト、室内楽奏者、そして教育者として中国の若手のなかでも最も活発な活動を行っている演奏家のひとり。上海音楽院、南カルフォルニア大学ソーントン音楽学校に学ぶ。2001年サンタバーバラ・ヤング・ミュージシャンズ・コンクール、2003年ホランドーアメリカ音楽協会国際ヴィオラコンクールに優勝するなど国内外のコンクールで入賞。これまでに室内楽でヨーヨー・マ、ミツジャ・マイスキー、ギル・シャハム、五嶋みどりらと共演している。上海音楽院教授。

■ゲスト／ヴィオラ(1/13, 14出演)

許 哲恵 Che-Hui Shu

シンシナティ音楽大学大学院ヴァイオリン・ヴィオラ科修了。ヴァイオリンを Piotr Milewski にヴィオラを川崎雅夫氏に師事。現在 台湾弦楽奏団ヴィオラ首席奏者、真理大学音楽



科ストリングオーケストラ指揮者、Taiwan Connection室内楽団団員として国内外で演奏活動を行っている。

■ゲスト／ヴィオラ(1/12, 13, 14出演)

富澤 直子 Naoko Tomizawa

武蔵野音楽大学大学院修了。ヴァイオリンを掛谷洋三・故ルイ・グレーラー、ヴィオラを磯良男、故ウルリヒ・コッホの各氏に師事。1991年より台湾高雄市在住。現在台湾国立中山大学音楽学部ヴィオラ科、室内楽クラスにて後進の指導に当たる傍ら毎年「tomy のアンコールコンサート」「ヴィオラ スペース in Taiwan」二つの音楽会を企画・開催している。

■ゲスト／フルート (1/13, 14出演)

陳 恵涓 Hui-Mei Chen

国立台湾芸術専門学校フルート専攻卒業。実験管絃楽団フルート奏者を務める傍ら、パリでも研究・研鑽を重ねる。パリ国立地方音楽院にて、フルート、音楽分析、Formation Musicaleなどの第3期課程並びにIRCAMのDEA課程修了。2007年博士論文「平義久の音楽における発想と影響の源泉」でパリ・ソルボンヌ大学の博士号を取得。08年には大阪音楽大学にて短期研究員も務めた。その後、国立台北芸術大学、国立台湾芸術大学、台北市立教育大学、天主教輔仁大学で非常勤教師として多様な授業をしており、現在、台北実践大学で専任教師。研究者として講演者として、様々な講演会に出席のみならず、フルート奏者として演奏活動、論文の発表と幅広く活躍。

■ゲスト／ヴァイオリン (1/13, 14出演)

林 暉鈞 Hui-Chun Lin

台湾国立芸術専門学校卒業。ラベンダー室内楽団メンバー。東京室内楽コンクール第3位。東京国際音楽祭スーパーワールドオーケストラメンバー。台北フィルハーモニーオーケストラコンサートマスター。国立台南芸術大学音楽部学部長を務め、現在フリーとして様々な演奏活動で活躍している。

■ゲスト／ヴァイオリン(1/11, 12, 14出演)

後藤 和子 Aiko Goto

桐朋学園大学、ジュリアード音楽院卒業。安田多恵子氏、故久保田良作氏、故ドロシー・デレイ、川崎雅夫各氏に師事。98年よりオーストラリア室内合奏団(以下ACO)正団員、若手演奏家を育てるACOアカデミーの音楽監督兼リーダー。2006年「日豪交流年記念」イベントの一環で両国での演奏会を多数開催。2014年サイトウキネン・Gigコンサートで小澤征爾監督指揮のもとでコンサートミストレスを務め、2017年8月小澤音楽塾で後進の指導にもあたる。2016年日豪友好協力基本条約調印40周年記念して外務大臣表彰を受賞。

■ゲスト卒業生／ヴァイオリン(1/12, 14出演)

井上 静香 Shizuka Inoue

桐朋学園大学卒業、同大学研究科修了。第6回東京音楽コンクール第2位および聴衆賞受賞。米アスペン音楽祭に奨学金を得て参加。小澤征爾、ムスティスラフ・ロストロポーヴィチ、ロバート・マンの各氏より薫陶と影響を受ける。ウィーンフィルのメンバーと室内楽を共演し、弦楽四重奏のマスタークラスでワルター・バリリ氏に絶賛された。ヴァイオリンを小林すぎ野、鷺尾悠子、原田幸一郎、加藤知子の各氏に、室内楽を店



村真積、山崎伸子、ゴールドベルク山根美代子の各氏に師事。紀尾井ホール室内管弦楽団メンバー。現在はフィラデルフィアに拠点を置き、ヴァイオリン/ヴィオラ奏者として幅広く活躍中。

■ゲスト卒業生／ヴァイオリン (1/11, 12出演)

島田 真千子 Machiko Shimada

名古屋市出身。東京芸術大学を首席で卒業後、6年間ドイツにて研鑽を積み2005年にデトモルト音楽大学院を最優秀で修了。これまで日本音楽コンクール2位、日本モーツァルト音楽コンクール1位、パガニーニ国際コンクールやJ.Sバッハ国際コンクールで入賞、愛知県芸術文化選奨文化賞を受賞。ソリストとして各地でのリサイタルや室内楽への参加、オーケストラと共演する他、サイトウキネンオーケストラ、ヴェリタス弦楽四重奏団のメンバーとしても活躍している。現在、水戸室内管弦楽団員およびセントラル愛知交響楽団のソロコンサートマスター。NPO法人イエローエンジェルよりG.Bガダニーニ(1769年)を貸与されている。

■ゲスト／ヴァイオリン (1/11, 12, 14出演)

ガボール・ザボ Gabor Szabo

ブダペスト出身。7歳でヴァイオリンを学ぶ。ブダペスト国立ヴァイオリンコンクール第1位、ザトゥレッキ国立ヴァイオリンコンクール第1位、カール・フレッシュ国際ヴァイオリン・コンクール第2位並びに特別賞受賞。ブダペスト交響楽団コンサートマスターを経て、カメラータ・ブダペスト室内オーケストラのコンサートマスターに就任、1993年からハンガリー国立ラジオで70以上のライブ録音に携わる。国内外のオーケストラでソリストとして共演のほか、室内楽やソロリサイタルでも幅広く活躍。2008年以降スペインに在住、マドリッドソロイスト・チェンバーオーケストラのコンサートマスターも務める。

■ゲスト卒業生／ヴァイオリン(1/12出演)

永井 公美子 Kumiko Nagai

桐朋学園大学音楽学部卒業。ハノーファー音楽演劇大学を首席で卒業。2007年同大学院ソロクラスに入学、ポーランドで行われたMiedzynarodowego国際コンクールにてグランプリ受賞。09年クレモナにてスタウファー財団ガラコンサートに出演。プレミア・ガスパロ・デ・サロ2009でグランプリ受賞。これまでに辰巳明子、ヘルマン・クレバース、クリストフ・ヴェグジンの各氏に師事。11年より活動の拠点を日本に移し、ソロや室内楽の活動他、後進の指導など、多方面で活動している。神戸女学院大学にて非常勤講師を経て、現在は桐朋学園大学付属音楽教室(目黒教室)にて、後進の指導に当たっている。

■ゲスト／チェロ (1/11, 12, 13, 14出演)

奥泉 貴圭 Takayoshi Okuizumi

ドイツ・トロッシンゲン音楽大学を経て、2007年より2年間バイエルン国立歌劇場の契約団員として研鑽を積む。2006年度文化庁在外研修員。1998年札幌ジュニアチェロコンクール優秀賞。2004年ビバホールチェロコンクール第2位。2009年に帰国後、上野学園大学講師、オーケストラ客演首席奏者の活動を始めとし、ソロ、室内楽奏者として国内外で演奏活動を行っている。これまでにチェロを上原与四郎、河野文昭、原田禎夫、イフ・サバリーの各氏に師事。



■ゲスト／チェロ、作曲 (1/10, 11, 12, 14出演)

ポール 賢司 ウィアンコ

Paul Kenji Wiancko

ロサンゼルス南カリフォルニア大学でチェロを学ぶ。ルトスラフスキー国際コンクール第2位、マルボロ音楽祭、アスペン音楽祭等に招待される。世界各国のオーケストラとの協演も多く、五嶋みどり、ヨーヨー・マ、グウアルネリ弦楽四重奏団とも共演している。作曲家としては、グラミー賞受賞のパーカー・カルテット、メトロポリタン歌劇場のソプラノ歌手ズナン・フィリップスなどに曲を提供し、アイズリカルテットのために作曲されたLIFTは大阪国際室内楽コンクール及び、ミシガン大学主催Mプライズコンペティションで演奏され、同カルテットは優勝を飾った。2018年S&Rワシントン賞受賞。同年11月には、ポートランド室内楽協会からの委嘱を受け、イサム・ノグチの岩の造形から受けた印象を音にした、2本のヴィオラと2本のチェロによるVox Petra (岩の声)を作曲し、好評を得ている

■ゲスト／バンドネオン、編曲 (1/12出演)

三浦 一馬 Kazuma Miura

10歳よりバンドネオンを始め、小松亮太に師事。2006年に別府アルゲリッチ音楽祭にてバンドネオン界の最高峰ネストル・マルコーニと出会い、その後自作CDの売上で渡航費を捻出してアルゼンチンに渡り、現在に至るまで氏に師事。08年国際ピアソラ・コンクールで日本人初、史上最年少で準優勝。11年別府アルゲリッチ音楽祭に出演し、マルタ・アルゲリッチやユリー・バシユメットらと共演して大きな話題と絶賛を呼んだ。17年には自らが率いる「東京グランド・ソロイスト」を結成。同年埼玉県「久喜市くき親善大使」に就任。18年10月最新盤「Libertango」をリリース。同年12月公開の映画「ピアソラ永遠のリベルタンゴ」の広報大使を務める。

■演出／パフォーマー (1/14出演)

丸山 和彰 Kazuaki Maruyama

日本大学芸術学部演劇学科卒業。パフォーマンスユニットCAVA(サバ)にて、エジンバラ演劇祭(イギリス)、カルカソヌフェスティバル(フランス)など国内外を問わず公演を行う。言葉を用いずに、身体表現と音楽によって物語や登場人物の感情を丁寧に描く手腕に定評がある。バレエダンサー首藤康之主演「レニングラード・ホテル」、串田和美演出・美術「コクーン歌舞伎四谷怪談」、市川準監督映画「明日の私の作り方」、NHK主催「デザインあ」展、NHK音楽祭「わくわくクラシック宝石箱」出演など、ジャンルを横断した創作活動を展開中。



■演出補佐／パフォーマー (1/14出演)

田中 優希子 Yukiko Tanaka

幼少よりモダンダンス、ジャズダンス、後にクラシックバレエを学ぶ。日本大学芸術学部演劇学科、劇団青年座研究所を経て、2008年よりマイムグループCAVAに参加。以降全作品に出演。音楽家パトリス・ペリエラスとの共作「BARBER」、バレエダンサー首藤康之を主演に迎えた「レニングラード・ホテル」などの国内公演に加え、Edinburgh Festival Fringe(スコットランド)Adelaide Festival(オーストラリア)Carcassonne Festival(フランス)等海外公演にも参加。



■受講生／ヴィオラ
エンチ・チェン En-Chi Cheng (台湾)
カーティス音楽院卒業、現在ジュリアード音楽院修士課程。富澤直子、ジョゼフ・ド・バスクワレ、Hsin-Yun Huang、サミュエル・ローズ、今井信子の各氏に師事。2016年ターティス国際ヴィオラコンクール特別賞。台北交響楽団とウォルトンのヴィオラ協奏曲で共演するなど、ソリスト、室内楽奏者としても活動を行い、アメリカと台湾では若い演奏家の指導にもあたっている。

シャオティ・グオ Xiaoti Guo (中国)
シンガポール国立大学音楽学部で Manchin Zhang に、ジェイコブズ音楽院で Stephen Wyrczynski に師事。2015年よりソフィア王妃高等音楽院で今井信子に師事し、2017年よりフランクフルト音楽大学修士課程。また2018年よりベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団アカデミーに参加している。

ミンユ・シュ Ming-Yu Hsu (台湾)
2016年ターティス国際ヴィオラコンクールでセミファイナリスト並びに"Pennycress Trust Bursary”受賞。フィラデルフィアオーケストラのグリーンフィールドコンクール2016でセミファイナリスト。"The Heifetz Program for Summer 2016”、アスペン音楽祭2017、ヴェルビエ音楽祭2018に参加。カーティス音楽院にて、Hsin-Yun Huang, Roberto Diaz に師事。

井上 祐吾 Yugo Inoue (日本)
東京藝術大学を経て、現在同大学院音楽研究科修士課程に在学中。学部卒業時に同声会賞、アカンサス音楽賞を受賞。東京藝術大学奏楽堂モーニングコンサートにて、藝大フィルハーモニア管弦楽団と共演。平成30年度宗次エンジェル基金／公益社団法人日本演奏連盟新進演奏家国内奨学生。安藤史子、百武由紀、市坪俊彦の各氏に師事。

桂田 光理 Hikari Katsurada (日本)
東京藝術大学3年生在学。第16回日本演奏家コンクール 弦楽器部門第1位、第24回日本クラシック音楽コンクール ピオラ部門第3位、第7回日本イタリア協会コンコロソ・ムジカルテ優秀大賞受賞。イタリア世界遺産・音楽芸術国際フェスティバル2016日本代表。17年小澤征爾音楽塾オペラプロジェクト参加。ザザ・ゴグア、山本由美子、市坪俊彦の各氏に師事。

ティンル・ライ Ting-Ru Lai (台湾)
ニューイングランド音楽院修士課程修了、Hsin-Yun Huang、ディミトリ・ムラトの各氏に師事。ギルドホール音楽院で研鑽を積む。台湾ヴィオラコンクール第1位など国際コンクールで上位入賞を重ねる。リヒテンシュタイン国際音楽アカデミーで創設された "ENSEMBLE ESPERANZA" のメンバーとして2017年まで在籍、現在はソリストや室内楽奏者として各国の音楽祭やオーケストラと共演している。◎奨学金助成対象者

ヘス・イ Hae-sue Lee (韓国)
2013年よりカーティス音楽院にて、Roberto Diaz氏とHsin-Yun Huang氏に師事。カーティス交響楽団にて『ドン・キホーテ』のヴィオラソロ、ミモザ室内アンサンブルのニューヨーク公演にてプリテン『ラクリメ』を共演、ヴェルヴィエ音楽祭アカデミー2017に参加。韓国と欧米の国際コンクールで上位入賞を重ね、2018年にプリムローズ国際ヴィオラコンクールで第1位並びに聴衆賞を受賞した。◎奨学金助成対象者

ボシェン・リ Boshen Li (中国)
北京中央音楽院にてChanghai Wangに師事。

チンハン・リン Ching Han Lin (台湾)
国立台湾師範大学卒業、アムステルダム音楽院で今井信子に師事し修士号を取得。2018年ザルツブルク・モーツァルテウム大学院修了、ウリアム・コールマンに師事。2017年ルビンシュタイン・ヴィオラコンクール第3位、2013年ヒンデミット・ヴィオラコンクール第1位、台湾学生音楽大賞第1位。また

7年以上にわたり台北新天院から長期奨学金を得ている。

ハヤン・パク Hayang Park (韓国)
クロンベルク・アカデミー・フェスティバル、クールシュベル国際アカデミー、フォーシーズンズ室内楽フェスティバル、ニューヨーク・ストリング・オーケストラ・セミナー2015に参加。"Concours International de Musique et D'art Dramatique Leopold Bellan"にて受賞。2017年第15回東京音楽コンクール弦楽部門第3位。延世大学校3年在学中。Sang-Jin Kim氏に師事。

ジウン・パク Ji Eun Park (韓国)
ソウル・イエウォン音楽学校でSang Jin Kim氏に師事。2013年ニューヨークのジュリアード音楽院プレ・カレッジ・プログラムに進学、14年から16年までロサンゼルス・コルバーン音楽院にてHelen Callus氏に師事。現在はジュリアード音楽院にてToby Appel氏に師事。American Protégé Int’l Music Talent Competition 2015にて第1位。

ティモシー・リダウト Timothy Ridout (イギリス)
英国王立音楽院でマーティン・アウトラムに学び、2016年よりクロンベルク・アカデミーで今井信子に師事。14年セシル・アロノヴィッツ国際ヴィオラコンクール第1位、15年ウィンザー祝祭国際弦楽コンクール第2位。16年ライオネル・ターティス国際ヴィオラコンクール優勝。ソリスト、室内楽奏者としてヨーロッパで広く活動している。2017年CHAMPS HILLレコードよりCDをリリース。◎奨学金助成対象者

ジユ・シェン Ziyu Shen (中国)
上海音楽学院で Sheng Li 氏に師事、2015年よりクロンベルク・アカデミーで今井信子に師事。第11回ターティス国際ヴィオラコンクール第1位、14年ヤングコンサートアーティスト国際オーデション最優秀賞受賞。18年東京国際ヴィオラコンクール第2位。エッセンバッハ指揮でバルトーク協奏曲、モーツァルト協奏交響曲をギドン・クレーメルと共演するなど、ソリストとして国際的に活動を広げている。◎奨学金助成対象者

鈴木 慧悟 Keigo Suzuki (日本)
ザルツブルグ=モーツァルト国際室内楽コンクール2014第1位、同年名古屋フィルハーモニー交響楽団と共演。名古屋でのソロリサイタル、六花亭ホールはばたく若手シリーズ、プロジェクトQ等室内楽演奏会に出演の他、北九州国際音楽祭などに参加。桐朋学園大学音楽学部を経て2016年よりカーティス音楽院在学。藤原浜雄、佐々木亮の各氏、現在Roberto Diaz氏に師事。

田原 綾子 Ayako Tahara (日本)
第11回東京音楽コンクール弦楽部門第1位及び聴衆賞、第9回ルーマニア国際音楽コンクール全部門グランプリ受賞、読売日本交響楽団など国内オーケストラと共演する他、ソリスト、室内楽奏者として幅広く活動している。2015、16年度ローム音楽財団奨学生。岡田伸夫氏、藤原浜雄氏に師事し17年桐朋学園大学卒業、現在パリ・エコールノルマル音楽院にてブルーノ・パスキエ氏に師事。

辻 菜々子 Nanako Tsuji (日本)
第10回横浜国際音楽コンクール弦楽器部門大学の部第2位。第4回Kアンリミテッド弦楽器コンクール特別優秀賞。2016、17年度山田貞夫音楽財団奨学生。ヴィオラを市坪俊彦氏に、室内楽を澤和樹、河野文昭の両氏に師事。東京藝術大学を経て、現在ドイツ国立デトモルト音楽大学にてファイト・ヘルテンシュタイン氏に師事。2018年10月よりハノーファー北ドイツ放送フィルハーモニー管弦楽団研修生。

ウェイ・ワン Wei Wan (中国)
2012年王立ノーザン音楽大学卒、16年アムステルダム音楽院修士課程を修了。これまでに、今井信子、トーマス・リーブル、Ásdís Valdimarsdóttir、Predrag Katanic の各氏に師事。王立ノーザン音楽大学ヴィオラコンクール第1位。17年に子

どもたちの国際交流、音楽と言語教育の場として "LeVii Academy" を設立。マネージング・ディレクターを務めながらヴァイオリンとヴィオラの指導を行っている。

山本 一輝 Itsuki Yamamoto (日本)
桐朋学園大学音楽学部ヴィオラ科4年在籍。クアルテットのメンバーとして、ザルツブルク=モーツァルト国際室内楽コンクール2014 ユース部門 第2位。プロジェクトQ、小澤征爾音楽塾、ヴィオラスペース公開マスタークラス等に参加。ヴィオラを佐々木亮氏に、ヴァイオリンを木野雅之、森川ちひろ両氏に、作曲を石島正博氏に、室内楽を磯村和英、堤剛、徳永二男、銅銀久弥、練木繁夫、毛利伯郎、山崎伸子各氏に師事。

山本 成 Naru Yamamoto (日本)
桐朋学園大学音楽学部を経て、ドイツ国立デトモルト音楽大学にてファイト・ヘルテンシュタイン氏に師事。2013年エネスコ国際音楽祭の他、国内外の音楽祭に受講生として参加。15年 彩の国さいたま芸術劇場今井信子リサイタルにてヴィオラカルテットで共演。ヴァイオリンを田淵洋子、ヴィオラを



ヴィオラの里 ころおぼえ（2） ヴィオラマスタークラス実行委員会 代表 高野るみ

ヴィオラマスタークラスは2019年1月の第15回をもって終了します。真冬の小樽朝里川温泉で地域の皆さんに育まれ、100人を超える卒業生が世界に羽ばたきました。その軌跡を2回に分けて振り返ります。 （第1回は2018年プログラムに記載）

小樽でヴィオラマスタークラスを15年間続けてこられたことを振り返ると、資金はどうしたのかを必ず尋ねられます。第1回は民間財団、第2回と第3回は地域政策補助金、以後6回目までは主催の小樽・朝里のまちづくりの会の助成をいただきました。基本的に受講生は全額自己負担で小樽に來ますから、生徒が納める受講料が講師やピアニストの交通滞在費等に充てられます。演奏会収入はホール使用料をカバーできる程度なので、地域の企業団体からの協賛金、個人的な募金も大きな助けになりました。でもイベント運営に関わった方なら想像できることですが、交通手段、会場費、なにより人件費という大きな支出部分を、最初から地域の皆さんの協力で助けていただけたことが、このマスタークラスの継続の源になっています。

そのボランティア精神は、主催を実行委員会に変えた後も変わりませんでしたし、周りの人々にも広がっていきました。第1回で助成を受けた野村文化財団の諸角憲二さんのように、小樽の活動を実際に確かめられて、独自に奨学金制度をご提案下さったり、レッスンや演奏会のビデオ撮影やタイムキーパー役まで「楽しいから」とおっしゃって引き受けてくださる。演奏者の体の使い方を指導する「アレクサンダー・テクニーク」の小野ひとみさんも、滞在中は受講生たちの相談にのってアドバイスやレッスンを行い、ご自身が理事をされている小野文化財団(前ビトウイン・ミュージック・タイス)からの助成も継続していただきました。

市民オーケストラなどで活動し、レッスンやリハーサル見学を希望して道内外から集まった聴講生の皆さんが、会期中はホテルに滞在されているので、いつの間にか事務

川崎雅夫、今井信子、佐々木亮の各氏に、室内楽を漆原啓子、銅銀久弥、毛利伯郎、磯村和英、名倉淑子の各氏に師事。

湯浅 江美子 Emiko Yuasa (日本)
桐朋学園大学音楽学部卒業。第8回横浜国際音楽コンクール大学の部第1位。小澤国際室内楽アカデミー 奥志賀、小澤征爾音楽塾、プロジェクトQ等に参加し研鑽を積む。2013年より音楽団体「MECP」副代表を務める。ヴィオラを佐々木亮氏に、ヴァイオリンを柿沼紀子、三戸素子、豊田弓乃の各氏に、室内楽を毛利伯郎、磯村和英、山崎伸子の各氏に師事。現在ミュンヘン音楽演劇大学にてヴィオラをHariolf Schlichtig氏に師事。

■聴講生／ヴィオラ （1/12, 14出演）
杉本 慧 Kei Sugimoto (日本) 相愛中学音楽科進学コース 3年
ヒンキ・スエン Hin Ki Suen (香港) 王立ノーザン音楽大学卒業
■聴講生／フルート （1/14出演）
シャオユウ・リウ Xiaoyu Liu (中国) 北京中央音楽院

小樽朝里川温泉の朝霧。朝霧の朝里川温泉。

小樽朝里川温泉の朝霧。朝霧の朝里川温泉。

小樽朝里川温泉の朝霧。朝霧の朝里川温泉。

小樽朝里川温泉の朝霧。朝霧の朝里川温泉。

小樽朝里川温泉の朝霧。朝霧の朝里川温泉。

小樽朝里川温泉の朝霧。朝霧の朝里川温泉。

小樽朝里川温泉の朝霧。朝霧の朝里川温泉。

局を代行して、参加者の昼食や備品の買い出し、スケジュール伝達、新参加者へのレッスン見学案内、譜めぐり、インフルエンザの予防対策などを自主的にして下さいます。

そして小樽での出会いが各地に広がって、今井先生と若い音楽家たちをそれぞれの場所で、それぞれのやり方で応援し続けて下さいます。一人ひとりのお顔を思い浮かべながら、感謝の気持ちと共に15回を振り返っています。

第6回 2010年1月4日～11日
今井信子（講師）田中利恵、飯村智子（ピアノ）山本由美子（講師アシスタント）受講生12名 ▶1/11 ニューイヤーコンサート（マリンホール）ロッシェニ：歌劇「セヴィリアの理髪師」序曲、ポーエン：4つのヴィオラのための幻想四重奏曲、ブルスタード：ヴァイオリンとピアノのためのカプリッチョ（ゲスト：後藤和子）、ヴァインツィール：4つのヴィオラのための夜想曲、シヨパン：チェロソナタ短調作品65 ▶1/11 スチューデントコンサート（マリンホール）

小樽・朝里のまちづくりの会が主催。前年（2009年）に今井信子が審査委員長をつとめた「第1回東京国際ヴィオラコンクール」が開催され、邦人作曲家賞を受賞した台湾のウェイティン・クオが前回からスタートした諸角憲治氏による「アジアからの受講生に対する奨学金制度」受給者として受講、海外からの受講生も12名中5名と増加しました。また山本由美子がアシスタント講師をつとめ、聴講生のための個人レッスン指導がスタート。アシスタントピアニストとして飯村智子も加わって、増加傾向の受講・聴講生に対応することになりました。ゲストで初参加したヴァイオリンの後藤和子さんは、その後も機会あるごとに小樽に立ち寄ってくださり、私達の演奏会に華を添えて下さいます。



第7回 2011年 1月3日～10日

今井信子（講師）田中利恵、飯村智子（ピアノ）山本由美子（講師アシスタント）受講生10名 ▶1/10 ニューイヤーコンサート（マリホール）テレマン：4つのヴィオラのための協奏曲第4番二長調、テレマン：無伴奏ヴィオラによる12のファンタジーから第9番口短調、ブルッフ：クラリネット、ヴィオラとピアノのための8つの小品（ゲスト・西田佳代）、二代米川敏子：風彩～箏・ヴィオラによる（ゲスト・難波雅楽紫奈）、プロコフィエフ：バレエ音楽「ロメオとジュリエット」から ▶1/10 ヴィオラブーケコンサート（マリホール/スチューデントコンサートから名称を変更）

第7回からはヴィオラマスタークラス実行委員会が主催となり、小樽・朝里のまちづくりの会は後援にまわります。受講生10名中4名が海外からの参加者。奨学金が倍増され受給者は3名となりました。この回はクラリネットと箏をゲストに迎え、アンサンブルを重点的に学びました。クラリネットトリオのレッスンで受講生全員を相手にした西田佳代さんは、唇の皮が剥けるほどの大活躍。またプロコフィエフの「ロメオとジュリエット」の参考にとバレエのビデオ鑑賞も宿舎で行い、今井先生をはじめ女性陣が大いに盛り上がったのも楽しい思い出です。ホームページの開設もこの回から。演奏会の動画アーカイヴや、過去の参加者のプロフィールやプログラムをご覧いただけます。

※この記事はホームページで確認できないプログラムなどを収録してきましたので、以下はプログラム記載を割愛します。

第8回 2012年 1月4日～14日

今井信子（講師）田中利恵、飯村智子（ピアノ）山本由美子（講師アシスタント）受講生10名 ▶1/6 小樽市議事堂コンサート ▶1/6 シューベルト「冬の旅」全曲演奏会（朝里クラッセ）▶1/8 新光南子供新年会 ▶1/11 ミニコンサート・まちづくり交歓会（朝里クラッセ）▶1/14 ヴィオラブーケ/ニューイヤーコンサート（マリホール）

これまでほぼ一週間だった会期が11日間に延長、受講生10名は前年と変わらないのでスケジュールに余裕が出るかと思いきや、小樽市議事堂と子供新年会への訪問演奏会に加えて、朝里クラッセホテルでの「冬の旅」全曲演奏が直前に追加。3年ぶりに復帰した草冬香が大役をつとめました。チェロの奥泉貴圭さんはブラームスのトリオで受講生全員のレッスンパートナーをこなし、本格的に取り組んだヴィオラアンサンブルに厚みを加える活躍で、以後マスタークラスには欠かせないメンバーとなりました。また昼夜2公演の合間もお客さんに楽しい時間を提供したいと、マリホールのロビーでハンドメイド雑貨の展示即売

も試みました。この「アートクラフト・ブーケ」は4年連続して開催され、作品を展示していた消しゴム版画家のアオヤマヤスコさんには2012年から現在まで8年にわたって素敵な版画をチラシやプログラムにご提供いただいています。

第9回 2013年 1月4日～14日

今井信子（講師）草冬香、田中利恵（ピアノ）山本由美子（講師アシスタント）奥泉貴圭（チェロ）受講生11名 ▶1/6、12 新光・朝里子供新年会 ▶1/8 小樽市議事堂コンサート ▶1/8 弦楽アンサンブルの夕べ（マリホール）▶1/13 ANAツアー歓迎ミニコンサート（グランドパーク小樽）▶1/14 ヴィオラブーケ/ニューイヤーコンサート（マリホール）

小樽市民センター・マリホールの使い勝手の良さは主催者として有り難いことでした。冬場の演奏会は集客が課題ですが、客席は半分の入場者でもそれなりに埋まって見えましたし、どの席で聴いてもバランス良い響きで伝わるので、お客様も自由にゆったり座れるのだと思います。2013年はマリホールでの有料公演を初めて2回開催しました。島田真千子、大島亮、奥泉貴圭による「ゴールドベルク変奏曲」は記憶に残るベストパフォーマンスで、動画再生回数は8万回を超えます。この年からピアノは草冬香と田中利恵の二人体制となり、演奏会のグレードも格段に上がりました。小早川麻美子編曲の「モルダウ」はマスタークラスが彼女に委嘱した最初の作品で、参加者全員で音楽を創造する楽しさもマスタークラス参加の意義になりました。今井信子は「小樽ふれあい観光大使」に任命され、ANAセールス(株)の協力で道外客を招き入れる試みも行いました。後に東京で「天道虫の会」が発足し、小樽の活動を応援してくれる人の輪がひとまわり大きく広がりました。

第10回 2014年 1月3日～13日

今井信子（講師）草冬香、田中利恵（ピアノ）大島亮、山本由美子（講師アシスタント）奥泉貴圭（チェロ）小早川麻美子（編曲）三浦一馬（バンドネオン）受講生10名 ▶1/4 小樽ゆき物語・街角コンサート ▶1/5、11 子供新年会 ▶1/9 杜の集い訪問演奏会 ▶1/11 ANAツアー歓迎ミニコンサート（朝里クラッセ）▶1/12 10周年記念演奏会/バッハとピアソラ ▶1/13 ヴィオラブーケ、10周年記念演奏会/ヴィオラの饗宴（マリホール）

10年目の節目に小樽のマスタークラスは2日連続の演奏会を開催、小早川編曲でバッハ、モーツァルト、ヴィヴァルディなどの名曲が、ヴィオラアンサンブルになり、私達を夢中にさせました。バンドネオンの三浦一馬さんがゲストで参加したピアソラも刺激的で、この時のエネルギーが後のマスタークラスを更に大きく加速させたように感じます。訪問演奏会には市内の高齢者サロン「杜のつどい」が加わり、小樽観光の冬のイベント「小樽ゆき物語」の会場となっている運河プラザでの街角コンサートもスタートしました。子供新年会同様に、受講生は自分たちでプログラムを考え、司会進行も含めて準備をしています。

第11回 2015年 1月3日～12日

今井信子、大槻晃士（講師）草冬香、田中利恵（ピアノ）山本由美子、大島亮（ヴィオラ・アシスタント）奥泉貴圭（チェロ）小早川麻美子（編曲）受講生12名 ▶1/4、5 バッハレクチャー ▶1/6 杜の集い訪問演奏会 ▶1/8 サロンコンサート・まちづくり交歓会（中サロン）▶1/10 子供新年会、ツアー歓迎ミニコンサート（朝里クラッセ）▶1/11、12 街角コンサート ▶1/11 ニューイヤーコンサート ▶1/12 公開レッスン、ヴィオラブーケ（マリホール）

一般社団法人ビトウイン・ミュージック・タイズが助成。マルポロ音楽祭で今井と親交のあったバロック音楽のスペシャリスト・大槻晃士がマスタークラスに加わりました。全員参加のバッハ・レクチャーの他、個人レッスンでもバロック音楽にはすべて彼が立ち会い、希望者には個別指導も行う「バッハ塾」の開設を誰よりも楽しみにしていたのは今井本人だったと思います。事務局としては大槻の発案によるオルガン&チェンバロの準備が課題となりましたが、組み立て式のオルガンケースから本格的なチェンバロの音が出たときは感慨深かったです。もう一人のキーパーソンはファイト・ヘルテンシュタイン。彼は翌年ドイツ・デトモルト音楽大学教授に就任、小樽でもアシスタントとして実力を発揮、20人からなる弦楽アンサンブルのリーダー役を担っています。

第12回 2016年 1月3日～15日

今井信子、大槻晃士（講師）草冬香、田中利恵（ピアノ）山本由美子、大島亮、ファイト・ヘルテンシュタイン（ヴィオラ・アシスタント）奥泉貴圭（チェロ）小早川麻美子（編曲）受講生13名 ▶1/5 杜の集い訪問演奏会 ▶1/6、10 バッハレクチャー ▶1/8 サロンコンサート・まちづくり交歓会（中サロン）▶1/9 子供新年会、ツアー歓迎ミニコンサート（朝里クラッセ）▶1/10、11 小樽ゆき物語・街角コンサート ▶1/10 ニューイヤーコンサート ▶1/11 公開レッスン、ヴィオラブーケ（マリホール）

▶1/13～15 OTARU VIOLA MASTER CLASS in TAIWAN 公開レッスンと二度の演奏会（台湾・高雄市音楽館、国立高雄師範大学）

一般社団法人東京倶楽部と一般社団法人ビトウイン・ミュージック・タイズが助成。受講生13名のうち7名が海外からの参加となり、レッスンや練習の場でも英語がスタンダードになってきました。メール作成は完全にインターネット翻訳が頼り。このマスタークラスの国際化は情報通信技術進化の恩恵でもあります。2016年最大のイベントは、マスタークラスとして台湾・高雄市を訪問し、大学での公開レッスンと、市のコンサートホールでの2日間に渡る演奏会を行ったこと。今井と旧知で、台湾でヴィオラを指導している富澤直子さんの主催で、毎年開催の「ヴィオラスペース台湾」に招聘されました。小早川麻美子が3年がかりで完成させたヴィヴァルディの協奏曲「四季」全曲を、小樽と高雄で披露できたのは大きな喜びでした。ツアーに参加したのは10名の選抜メンバーでしたが、高野と聴講生3名

も同行。温かいおもてなしと、満席の観客の集中して音楽を聴く熱心さに感動しました。2019年の最終回に今度は台湾から小樽を訪れて、また一緒に演奏ができるのは本当に嬉しいです。1月13日マリホール・ランチタイムコンサート「台湾の仲間たちを迎えて～Viola Space Taiwan」は無料公演ですが、台湾ツアー参加メンバーと今井信子ヴィオラカルテットも加わる豪華な顔ぶれで、台湾の作曲家による新作の日本初演もあります。是非ご来場下さい。

第13回 2017年 1月3日～16日

今井信子、大槻晃士（講師）草冬香、古賀大路、高橋悠介（ピアノ）山本由美子、大島亮、ファイト・ヘルテンシュタイン（ヴィオラ・アシスタント）奥泉貴圭、ポール・ウィアンコ（チェロ）小早川麻美子（編曲）吉見伊代（チェンバロ）受講生13名 ▶1/6、12 バッハレクチャー ▶1/6 子供新年会 ▶1/8 公開レッスン、ミニコンサート（マリホール）▶1/9、14 街角コンサート ▶1/9 ニューイヤーコンサート（マリホール）▶1/12 杜の集い訪問演奏会 ▶1/14 ヴィオラブーケ▶1/15 フォーシーズンズコンサート in 小樽（マリホール）▶1/16 フォーシーズンズコンサート in 東京（浜離宮朝日ホール）

一般社団法人ビトウイン・ミュージック・タイズが助成。前年小樽と高雄で披露したヴィヴァルディ「四季」を、もう一度今のメンバーで再演し、きちんとした形で録画として残したいという気持ちが台湾ツアーのときに生まれました。そして再演するならば是非東京でも演奏したいと、小早川編曲でピアソラ「ブエノスアイレスの四季」を盛り込んだプログラムに挑戦。新千歳空港を午前に出発、夜7時の東京本番は、無事に天候に恵まれて大成功を収めました。

第14回 2018年 1月3日～16日

講師、ピアニスト、アシスタント、ゲスト15名、受講生16名 一般社団法人東京倶楽部と小野文化財団が助成。

第15回 2019年 1月2日～14日

講師、ピアニスト、アシスタント、ゲスト37名、受講生20名 一般財団法人小野文化財団が助成。

「グランドフィナーレはとびきり盛大に賑やかに楽しく！」2年前に今井先生と話し合った通りに、これまでの卒業生やゲストをたくさん迎えて、過去最大規模のマスタークラスが始動します。昨年のバルトークもそうでしたが、いつだって新しいことに挑戦し続ける姿勢はかわらず、目指すのはモーツァルトの傑作「ドン・ジョヴァンニ」です。

これが終わったら何があるんだろう・・・ということを考える間もなく、今井先生は次の山を見ていらっしゃる気がします。小樽と朝里とのご縁は、きっとまたこの先もつながっていく、その予感を大切に、油断なく、温めていきましょう。

これまでマスタークラスを見守り、育ていただいた皆様にご心から感謝申し上げます。そして今後もなにかと頼りにさせて下さい。どうぞよろしく願いいたします。

ゆらぎの里ヴィオラマスタークラス参加者 2004年～2019年

■ 講師
今井 信子 Imai, Nobuko 04～19
岡田 伸夫 Okada, Nobuo 04～05
大槻 晃士 Otsuki, Koji 15～19

■ ヴィオラ受講・アシスタント・ゲスト (105名)
阿部 春花 Abe, Haruka 08, 09
赤坂 智子 Akasaka, Tomoko 04, 05
青木 篤子 Aoki, Atsuko 04, 05
有田 朋央 Arita, Tomohiro 12, 15
朝吹 園子 Asabuki, Sonoko 04, 05
エンチ・チェン Cheng, En-Chi 12, 14～17, 19
サリー・チズム Chisholm, Sally 18, 19
越後 なつみ Echigo, Natsumi 07
藤原 右京 Fujiwara, Ukyo 17
深澤 麻里 Fukazawa, Mari 09, 10, 12
後藤 彩子 Goto, Ayako 04, 05
後藤 俊太郎 Goto, Shuntaro 16, 18
シャオティ・グオ Guo, Xiaoti 14, 19
芳賀 明子 Haga, Akiko 08
イエジン・ハン Han, Yejin 11, 12
ハイウォン・ハン Han, Hae-Won 10
原 裕子 Hara, Yuko 05, 07, 08
原 麻理子 Hara, Mariko 07, 08, 14
橋本 歩 Hashimoto, Ayumi 10
林 雄一郎 Hayashi, Yuichiro 04
ファイト・ヘルデンシュタイン Hertenstein, Veit 15～19
廣狩 亮 Hirokari, Akira 04, 05, 07, 19
キアンウィ・ホ Ho, Qian Hui 18
細川 泉 Hosokawa, Izumi 18
ミンユ・シュ Hsu, Ming-Yu 17～19
ヨジン・ファン Hwang, Yeo-Jin 09
飯 頭 li, Akira 09
井上 望美 Inoue, Nozomi 10
井上 典子 Inoue, Noriko 13, 14, 18, 19
井上 祐吾 Inoue, Yugo 19
ジュイ・カン Kang, Jui 05
ウェンティン・カン Kang, Wenting 18, 19
叶澤 尚子 Kanouzawa, Naoko 05
笠川 恵 Kasakawa, Megumi 05
加藤 大輔 Kato, Daisuke 09, 10
桂田 光理 Katsurada, Hikari 15, 17～19
河相 美帆 Kawai, Miho 13～15, 19
金 孝珍 Kim, Hyojin 04
ソウン・キム Kim, Sungeun 05
セジュン・キム Kim, Sejune 10, 11
木下 雄介 Kinoshita, Yusuke 13
小早川 麻美子 Kobayakawa, Mamiko 13～19
神原 玲奈 Kohara, Rena 12～14, 18, 19
小泉 理子 Koizumi, Ayako 05
小峰 航一 Komine, Koichi 05, 07
小笹 文音 Kozasa, Ayane 17, 19
ウェイティン・クオ Kuo, Wei-Ting 10, 19
ティンル・ライ Lai, Ting-Ru 13, 19
ティムウェイ・ラム Lam, Tim-Wei 09, 15

ハンナ・リー Lee, Hanna 18, 19
スンウォン・リ Lee, Seungwon 13
ファウン・イ Lee, Hwayoon 16
サンジン・イ Lee, Sung-Jin 16, 18
ヘス・イ Lee, Hae-sue 17～19
ボシェン・リ Li, Boshen 19
チンハン・リン Lin, Ching Han 13～17, 19
マーク・リウ Liu, Mark 18
ニアン・リウ Liu, Nian 19
ジャンジュエン・リウ Liu, Zhangjuan 16
シェン・リュウ Lu, Xiang 11
前 南有 Mae, Nau 05
牧野 葵美 Makino, Kimi 09, 10, 12, 19
丸山 奏 Maruyama, Kanade 07
松田 みどり Matsuda, Midori 09, 10
松本 有理 Matsumoto, Yuri 04, 05
松山 香澄 Matsuyama, Kasumi 09, 10, 12
三木 香奈 Miki, Kana 10
ウィリアム・マレー Muray, William 16
中 恵菜 Naka, Meguna 13, 15
小熊 佐絵子 Oguma, Saeko 04, 05, 07
沖田 孝司 Okita, Koji 10
大野 若菜 Ono, Wakana 11, 12
大島 亮 Oshima, Ryo 04, 05, 08, 12～19
ハヤン・パク Park, Hayang 17～19
ジウン・パク Park, Ji Eun 18, 19
ティモシー・リダウト Ridout, Timothy 19
タマーシュ・ロジヨシュ Rozsos, Tamas 10, 11
坂口 翼 Sakaguchi, Tsubasa 04
猿渡 美穂子 Saruwatari, Mihoko 11
ジユ・シェン Shen, Ziyu 15～17, 19
正田 響子 Shoda, Kyouko 16
許 哲恵 Shu, Che-Hui 19
須田 祥子 Suda, Sachiko 04, 19
ヒンキ・スエン Suen, Hin Ki 19
杉本 慧 Sugimoto, Kei 19
杉中 景子 Suginaka, Keiko 04
杉田 恵理 Sugita, Eri 08, 19
鈴木 慧悟 Suzuki, Keigo 14～19
田原 綾子 Tahara, Ayako 14～16, 18, 19
高橋 奨 Takahashi, Susumu 05
高尾 真里恵 Takao, Marie 11
瀧本 麻衣子 Takimoto, Maiko 04, 08
冨田 大輔 Tomita, Daisuke 04, 05
富澤 直子 Tomizawa, Naoko 19
スシェン・ツァイ Tsai, Shih-Hsien 12
坪之内 裕太 Tsubonouchi, Yuta 16
辻 彩子 Tsuji, Ayako 04
辻 菜々子 Tsuji, Nanako 16～19
ウェイ・ワン Wan, Wei 18, 19
渡部 咲耶 Watabe, Sakuya 14, 15
山口 真 Yamaguchi, Makoto 11, 13
山本 由美子 Yamamoto, Yumiko 09～19
山本 成 Yamamoto, Naru 15～17, 19
山本 一輝 Yamamoto, Itsuki 17～19
湯浅 江美子 Yuasa, Emiko 18, 19

■ ヴァイオリン (13名)
後藤 和子 Goto, Aiko
市川 映子 Ichikawa, Eiko
井上 静香 Inoue, Shizuka
川又 明日香 Kawamata, Asuka
北野 紫帆 Kitano, Shiho
三原 久遠 Mihara, Hisao
永井 公美子 Nagai, Kumiko
林 暉鈞 Lin, Hui-Chun
佐橋 まどか Sakitsu, Madoka
島田 真千子 Shimada, Machiko
清水 まゆみ Shimizu, Mayumi
ガボール・ザボ Szabo, Gabor
植村 太郎 Uemura, Taro

■ チェロ (5名)
廣狩 理栄 Hirokari, Rie
宮田 大 Miyata, Dai
奥泉 貴圭 Okuizumi, Takayoshi
ポール 賢司 ウィアンコ Wiancko, Paul Kenji
吉岡 智広 Yoshioka, Tomohiro

■ コントラバス
斎藤 正樹 Saito, Masaki
助川 龍 Sukegawa, Ryu

■ ピアノ (8名)
有吉 亮治 Ariyoshi, Ryoji
飯村 智子 Iimura, Tomoko
古賀 大路 Koga, Taiji
草 冬香 Kusa, Fuyuka
鈴木 慎崇 Suzuki, Yoshitaka
高橋 優介 Takahashi, Yusuke
田中 玲奈 Tanaka, Rena
田中 利恵 Tanaka, Rie

■ チェンバロ
吉見 伊代 Yoshimi, Iyo

■ バンドネオン
三浦 一馬 Miura, Kazuma

■ フルート
陳 惠湄 Chen, Hui-Mei
シャオユウ・リウ Liu, Xiaoyu

■ クラリネット
西田 佳代 Nishida, Kayo

■ 箏
難波 加奈子 Nanba, Kanako

■ バリトン
辻 博之 Tsuji, Hiroyuki

■ マイムパフォーマンス
丸山 和彰 Maruyama, Kazuaki
田中 優希子 Tanaka, Yukiko

※敬称略・アルファベット順・数字は受講参加年
※2006年は夏期から冬期へ移行のため開催なし

第15回 ゆらぎの里ヴィオラマスタークラス 2019 小樽市内での無料公演

スペシャルブーケコンサート
Special Bouquet Concert

2019年1月11日(金) 17時開演
小樽・朝里クラッセホテル 2F ナパイア

ラヴェル：ソナチネ 第2楽章、
シューベルト：君はわが戀い (北村朋幹編曲)
M. Ravel : Sonatine, II. Mouvement de menuet
F. Schubert : Du bist die Ruh (arr. Tomoki Kitamura)
今井信子、ウェンティン・カン、ニアン・リウ
ファイト・ヘルデンシュタイン (ヴィオラ)

クルークハルト：葦の歌 より 第3曲、第4曲
A. Klughardt : Schilflieder, Op. 28
島田真千子 (ヴァイオリン) 今井信子 (ヴィオラ) 草冬香 (ピアノ)

西村朗：無伴奏ヴィオラソナタ 第2番「C線のマントラ」
A. Nishimura : Sonata II "Mantra on the C string"
井上典子 (ヴィオラ)

マルティヌー：3つのマドリガル より
B. Martinu : Three Madrigals for Violin and Viola
後藤和子 (ヴァイオリン) サリー・チズム (ヴィオラ)

ヴェプリク：ラプソディー 作品11
A. Veprik : Rhapsodie, Op. 11 for Viola and Piano
杉田恵理 (ヴィオラ) 高橋優介 (ピアノ)

モーツァルト：デュオ
W. A. Mozart : Duo
ガボール・ザボ (ヴァイオリン) ウェンティン・カン (ヴィオラ)

ウィアンコ："Vox Petra"
P. Wiancko : "Vox Petra" for viola/cello quartet
inspired by Isamu Noguchi
小笹文音、ハンナ・リー (ヴィオラ)
ポール・ウィアンコ、奥泉貴圭 (チェロ)

小樽ゆき物語／街角コンサート

2019年1月6日(日) 11時30開演
小樽運河プラザ一番車

小樽ゆき物語／ランチタイムコンサート
台湾の仲間たちを迎えて～
Viola Space Taiwan

2019年1月13日(日) 11時30開演
小樽市民センター・マリンホール

ベートーヴェン：トリオ Op.87より
L. v. Beethoven : Trio, Op. 87 for 3 Violas, Allegro
ウェイティン・クオ、許哲恵、エンチ・チェン (ヴィオラ)

ベートーヴェン：セレナーデ Op.25より
L. v. Beethoven : Serenade in D major for Flute,
Violin and Viola, Op. 25
陳惠湄 (フルート) 林暉鈞 (ヴァイオリン) 富澤直子 (ヴィオラ)

ベートーヴェン：弦楽三重奏曲 八短調 Op.9 No.3より
L. v. Beethoven : String Trio in C minor, Op. 9, No. 3
林暉鈞 (ヴァイオリン) 今井信子 (ヴィオラ) 奥泉貴圭 (チェロ)

杉山洋一：ヴィオラ四重奏のための「子供の情景」より
Y. Sugiyama : "KINDERSZENEN" on R. Schumann for
viola quartet
今井信子、ウェンティン・カン、ニアン・リウ
ファイト・ヘルデンシュタイン (ヴィオラ)

彭靖：ヴィオラ四重奏のための組曲「こどものころ」
(Viola Space Taiwan 委嘱新作)
J. Peng : Suite for viola quartet "Memories from
childhood"

許哲恵、富澤直子、今井信子、ファイト・ヘルデンシュタイン、
ウェンティン・カン、ニアン・リウ、ウェイティン・クオ、
チンハン・リン、ミンユ・シュ、エンチ・チェン、ジユ・シェン、
大島亮、鹿島淑子、佐野友美、堀寿人、櫻井環 (ヴィオラ)

新光南子供新年会／訪問演奏会

2019年1月5日(土) 10時開演
小樽市・新光南会館

杜のつどい／訪問演奏会

2019年1月8日(火) 13時30開演
小樽市産業会館内「杜のひろば」

Congratulations!
地域の文化とまちづくりを応援します
北海道新聞中販売所
小樽市新光 4-1-16
☎ 0134-51-2121 FAX.52-0088

森の天空
露天風呂
大自然の壮大な景色に
洗われる瞬間
五感すべてが
解放されるひととき
心に止めておきたい
場所になる

ご宿泊プラン (1泊2食付)
■スタンダードルーム 11,800円(税別)～
■デラックス和洋室 15,000円(税別)～

ニセコ昆布温泉 ホテル
北海道虻田郡ニセコ町415
Tel. 0136 (58) 3800
http://kanronomori.com/

雪ほたるの湯
やさしいホテルの
イルミネーションに包まれて
ゆったりと寝るやわらかな湯
森がくれる癒しを心ゆくまで
味わってください。

露天風呂付き客室プラン
3～4名様 1室ご利用 1泊2食付
お一人様・税込 16,350円より

スタンダードツイン宿泊プラン
3名様 1室ご利用 1泊2食付
お一人様・税込 12,030円より

小樽 朝里クラッセホテル
小樽市朝里川温泉2丁目676 TEL 0134-52-3800
http://www.classe-hotel.com/